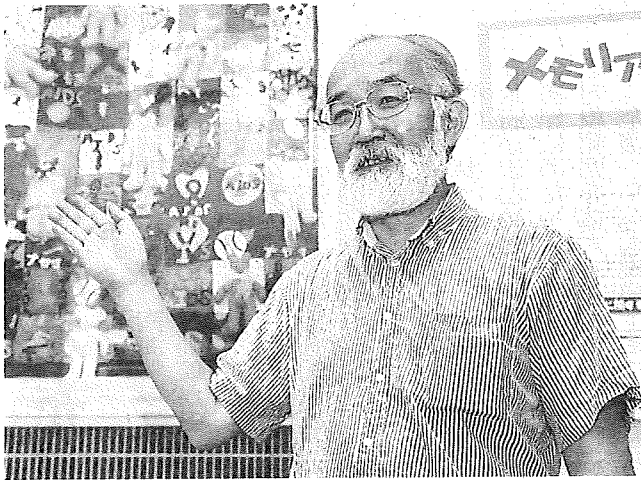


ひと

リバティおおさか再開を目指す

朝治武さん(65)



1955年、兵庫県生まれ。大阪
市立大卒。本名は白橋武。著書に「水
平社論争の群像」など。

差別と人権がテーマの大阪人権博物館(リバティおおさか)が5月末、休館した。土地を所有する大阪市との訴訟を経て35年の歴史にいったん終止符が打たれることに。被差別部落の解放に取り組んだ全国水平社の創立から100年となる2022年に、新たな場所での再開を目指す。

高校2年の夏休みに参加した部落解放運動の集会。同年代の若者が就職や結婚差別に苦しんでいた。2学期初日のホームルームで、自分も部落出身だと明かして訴えた。「差別があるのは、差別をする人がいるから。差別する人を生んでしまう社会があるからや」

前身の資料館設立から携わり、1985年の開館後はアイヌや在

日朝鮮人などの差別も扱った。虐げられた人の苦しみや克服する姿を示し、どう共感するのかを来館者に問いかけてきた。

「差別自体よりも、差別に向き合う力がない社会になることこそが不幸」。寛容さをなくした社会では、差別の表れ方も変化し、より陰湿になっている。出前講座や巡回の写真展を計画しながら、施設の再開準備に寸暇を惜しむ。

休館して間もない6月、1通の便りが届いた。館長を務めていることを知った高校の同級生からだった。今も当時の出来事を鮮明に覚えているという。「高2の時の志を持ち続けていたんやなあ」と書かれた文面を照れくさそうに目で追いかけながら誓った。「リバティは私の人生そのもの。絶対にまたスタートさせてみせる」

文・村松洋
写真・菱田諭士

2020.9.2